

教育計画

1. 校訓 『夢・自立・共生』

夢	夢を育む	…… 自らの理想を求め、挑戦し、未来を切り拓こう
自立	自分を創る	… 自ら学び、深く考え、積極的に行動し、自分の命を輝かそう
共生	共に生きる	… 認め合い、支え合い、高め合い、絆を深めよう

2. 学校教育目標 『心豊かでたくましく 仲間と共に 未来を拓く生徒の育成』

3. 学校教育重点目標

(1) 生徒指導の充実 ～自ら望ましい生活習慣を築き進路を切り拓く生徒の育成のために～

生徒一人ひとりに目を配り、心に触れる指導を基本とし、当たり前のことや当たり前のできる「しつけ」指導を通して学校や社会生活のルールを守る態度を養い、よりよい生活習慣・態度を育成する。また、自己肯定感や主体的に考える力を育て、将来に「夢」を持ち、「理想」をかかげて進路を自らの力で切り拓くことのできる実践力のある生徒の育成を図る。

(2) 学習指導の充実 ～自ら学ぶ生徒の育成のために～

生徒一人ひとりの理解度・つまづきなどを的確に把握し、生徒が主体的に、協働的に学習する授業づくり、環境づくりに努める。そのために、全職員が授業改善に取り組み、確かな学力の育成を図る。また、家庭学習の意義・重要性を確認し、その習慣化を図る。

(3) 健全な心身の育成 ～心身ともに健全で、粘り強く思いやりのある生徒の育成のために～

授業・生徒会・部活動・行事等、日常的活動の充実を通して、ねばり強い意志と体力、豊かな情操と仲間を思いやる心を育て、集団の一員として自覚した行動をとれる生徒の育成を図る。

(4) 支援教育の充実 ～一人ひとりの教育的ニーズに応える指導を目指して～

特別支援学級の生徒及び通常学級の生徒について生活面・学習面での困り感や課題を把握し、一人ひとりのニーズに合わせた支援教育を実践し充実を図る。

(5) 学校と家庭・地域との連携の強化 ～保護者・地域に開かれた学校を目指して～

学校と保護者・地域社会が緊密に連携し合い、理解と信頼のもとに協力、支援を仰ぎ、学校教育の充実と活性化を図る。また、地域行事へ積極的に参加する。

(6) 小学校との連携を積極的にすすめ、指導の相互交流を図る

～教育の連続性を追求し、生徒の発達の段階に合わせた指導を行う～

義務教育9年間をワンスパンと捉え、校区内小中の連携を通して学校教育の連続性を追求し、発達の段階に合わせた学習・生活指導により、中1ギャップを軽減し、生徒の健全な育成を図る。

4. 学校経営の具体的方針

(1) 生徒の夢、自立、共に生きる力を育む生徒指導の充実

① 校訓「夢・自立・共生」を具現化すべく、人権尊重の精神を基盤とし、「生徒が夢と向き合い仲間とともに学び、ともに生きる中で、自己確立・自己実現を図る」教育を実践する。

教師は生徒ひとり一人に目を向け、寄り添い、支援する中でその人格的な伸長を図る。そのために日頃から学習指導、部活動指導、教育相談を充実して生徒理解に努め、信頼関係を築いていく。

② 基本的な生活習慣の定着と向上に向けて、全教職員の共通理解を図りながら学年を越えて指導を行う。問題行動に対しては組織的に生徒指導を進めるとともに予防的指導の充実を図る。また、日常的に保護者・地域、SC、外部機関と情報交換や連携を密にし、多方面からの生徒理解に努めながら、より効果的な指導に努める。特にいじめ・暴力・暴言については「絶対に許さない」指導を心がけるとともに外部機関とも連携して指導、対応する。

③ 生徒が授業規律や集団生活の秩序の大切さを認識し、学校生活の決まりを守り、自分たちで落ち着いた生活ができるように生徒会・学級活動において自治活動を進め、組織的・計画的に指導を進めていく。

(2) 確かな学力を育む学習指導の充実

- ① 生徒の学ぶ意欲を高め、確かな学力を形成するために、生徒が互いに認め合い、主体的に取り組む授業展開を目指して全教職員による授業研究・授業改善を進める。
特に「聴く力」、「書く力」を育む。
- ② 授業に基礎・基本の定着を図る学習機会を設定するとともに、帰学習や補習学習等(定期テスト前学習会・夏季休業中学習会・ウォームアップ等)を設定して基礎学力の定着、確かな学力の向上をめざす。
- ③ 基礎学力向上に向けて家庭学習の習慣化・定着を図る。家庭で自ら取り組む自学習ノートなど、各教科・各学年でその内容・量・時期などを検討して効果的に宿題や課題に取り組みさせる。また、併せて保護者の意識啓発を図る。
- ④ TT・少人数指導の工夫を重ねながら、生徒一人ひとりに対する学習面の支援を充実させる。

(3) 共に生きる力を育む特別活動の充実

- ① 教育活動全体を通して集団と個人の関係を意識して指導を行い、集団の成長(一体感や達成感)とともに生徒個々が自己認識を深め、自己有用感・自分の居場所を持てる学校文化(学級・学年・学校行事、生徒会活動、部活動等)を創出する。
- ② 安心で安全で安定した学校生活の基盤は学級にある。学級・学年経営において人権尊重の意識を土台に、生徒一人ひとりが大切にされ、お互いに認め合い、支え合い、高め合う生徒集団づくりを進める。そのために生徒の学級活動や生徒会活動、部活動等、生徒自らが課題解決に取り組めるようにリーダーを育成しつつ、生徒による自主的・主体的な活動を組織して、達成感を味わえるよう支援していく。
- ③ 生徒が自己認識を深め、自己の特性・長所を活かして自分の生き方や進路を真剣に考え自己実現を図られるようにキャリア教育の視点を活かして3年間の特別活動・総合的な学習の指導を進める。
- ④ 道徳を中心に教科・特別活動・部活動等全教育活動を通して、生徒がより良い生き方を求めて粘り強く心身共に健康な生徒の育成を図る。特に、道徳の教科化を見通し、年間指導計画と実践の充実に努める。(考え、議論する道徳授業の組み立てを)

(4) 支援教育の充実

- ① 特別支援学級在籍生徒・保護者と意思疎通を十分に図り、生徒の状況やニーズを把握し、より適切に指導・対応ができるよう、特別支援教育の指導体制(特別支援学級担任以外の教員の指導)の充実を図る。
- ② 通常学級在籍で基礎学力が定着していない生徒や不登校生徒への対応について、本人・保護者と共通理解の下に基礎・基本の教科指導を行う支援教育体制(特別支援非常勤講師の配置)を構築する。
- ③ 長欠生徒(問題行動、生活面、精神面)の状況に応じて適切な指導・対応が取れるように教育相談コーディネーターを中心に支援体制(S・S・Wの活用を含む)を構築し、充実させる。
- ④ 「インクルーシブ教育」の在り方について研修を深め、本校の支援教育に活用していく。

(5) 学校と家庭・地域との連携の強化

- ① 三崎中学校の教育方針について地域、保護者・PTAとの共通理解を図りながら学校運営に対して積極的な支援・協力を仰ぐとともに職員もPTA活動・地域行事に積極的に参画する。
保護者のボランティア組織である「学校サポーターズ」の活動を支援していく。
- ② 土曜参観・授業参観・研究授業等、日常の教育活動を積極的に公開するとともに学校・学年通信等、情報発信に努め、信頼される開かれた学校をめざす。学校公開を2回設定=6月・土曜参観(保護者向け)、10月・文化祭(保護者・地域向け)
- ③ 生徒・職員が地域の一員として、積極的に交通安全指導、ボランティア清掃や地域の行事また募金活動等に参画して共生意識を涵養する。「中学生の力」による地域貢献の活用
- ④ 地域・保護者・PTAと連携しながら学校の施設・設備の安全点検・保全等、教育環境の整備を図る。
- ⑤ 校区内3小学校との情報交換・連携を推進し、義務教育9年間を見通した学習指導・家庭学習・生活指導の在り方を研究し、実践する。